

北陸新幹線芦原温泉駅開業記念企画展

きて・みて！ あわらのお宝展
—珠玉の指定文化財を大公開—

あわら市郷土歴史資料館

はじめに

市内の指定文化財は、「福井県桑野遺跡出土品」（考古資料、縄文時代のアクセサリ等）と「吉崎御坊跡」（史跡）の国指定2件をはじめ、県指定15件、市指定59件、登録有形文化財4件の、合計80件（令和5年4月1日現在）あり、これらはすべて市のお宝です

今回、北陸新幹線芦原温泉駅が開業するのを記念して、市のお宝の中から普段は公開が難しいものも含めた15点と、関連資料を大公開します。

あわら市の歴史と文化の素晴らしさを、来て・見て、感じてください。

けんぽんちゃくしよく む そうしなのかみしょうゆうぞう
【絹本著色 武曾信濃守勝融像】（県指定文化財・絵画・日源寺蔵）※展示前期

像主は、武曾信濃守勝融。あわら市の瓜生に館を構え、朝倉貞景・孝景・義景の三代に仕えた武将です。剃髪して豊かな白ひげを蓄え、赤茶色の大紋を着用して向かって右を向いて座っています。

勝融は、1564年（永禄七年）に82歳で没していますが、像の右肩に「武曾信□源 []」、「[] 七十七歳」とあり、勝融の喜寿を記念して描かれたことがうかがえます。また、像主が右を向いているのは、生前に描かれた寿像であることを示しています。福井県内では、室町時代にさかのぼる武士の肖像画は珍しく貴重です。

この像で描かれた勝融は、目を細め、心なしか微笑み、穏やかな表情を浮かべています。加賀一向一揆と幾度となく厳しい戦いを繰り広げながらも、無事喜寿を迎えた勝融の胸に去来したものは、果たしてどのような思いだったのでしょうか。



【福井県桑野遺跡出土品】（国指定文化財・考古資料・あわら市蔵）

桑野遺跡は、JR 芦原温泉駅の北東にあたる加越台地の東南縁に接した標高約 20mの低丘陵に所在していました。この縄文時代の石製アクセサリーは、多くが丘陵南端中央付近に密集して営まれた 24 基の土壌から出土したものです。特に、ピアスとして使用されていたと考えられている、けつ状耳飾は計 71 点にもおよび、一つの遺跡からの出土数では日本一です。その形状から日本最古級のものも含まれており、質・量ともに他を圧倒しています。

その他、筥(へら)状垂飾、鯉節形垂飾、棒状垂飾、腕輪状垂飾、管(くだ)玉(たま)など、総数 85 点にものぼり、大変貴重なことから国重要文化財（考古資料）となっています。

また、使用されている石材のうち、白色を呈する石材は、石材鑑定によるとアジア大陸渡来品とされ、約 6,800 年前に海外交流が行われていたことを示しています。



しゅぎんふりわけぬり い よ ぎねにまいどうぐそく 【朱銀振分塗伊予札二枚胴具足】（市指定文化財・工芸）

戦国時代、金津城を拠点として越前北部に勢力をもった溝江氏ゆかりの甲冑です。

兜は、鉢をシックな黒で抑えながら、牛角の脇立には金を用いるなど明暗をはっきりさせています。一方で、胴については、朱塗の箇所と銀の箇所が巧妙に配置され、大腿部を守る草摺は金箔で統一されており、その趣向に目を引きます。

華やかさが目立つ甲冑ですが、一方で安土・桃山時代になって流行した「伊予札」（甲冑を構成するパーツ）で形成されており、前後



を蝶番で合わせた二枚胴の「当世具足」と呼ばれる形式で、実戦を意識したつくりとなっています。

また、この甲冑が収められた唐櫃には、溝江長氏が朝倉義景から拝領した甲冑と記されており、その由緒とともにあわら市の戦国時代史を象徴する一品です。

りゅうたくじさんそそう
【龍澤寺三祖像】（県指定文化財・絵画・龍澤寺蔵）※展示後期

龍澤寺を開山した梅山間本禅師は、祖師の峨山韶碩を一世、師の太原宗真を二世とし、自らを三世としました。この三人を描いた肖像画は頂相と呼ばれる形式で描かれています。

禅宗では師から弟子へ法を正しく嗣いだ証として自身の頂相を与えました。弟子はこれを師そのものとして崇めたが、後には開山忌など祖師の忌日に行われる法要で掛けるために制作されるようにもなりました。

この三祖像は、上部の画賛を龍澤寺第六十四世華覚契琢が1547年（天文十六年）に記していることから、室町時代に描かれたことがわかります。三師の容貌が的確に描かれており、室町時代の画風を知ることにもできる貴重な絵画です。

たがやさこんみつね ぞうこつき
【多賀谷左近三経の蔵骨器】（考古資料・あわら市蔵）

多賀谷左近三経は、初代福井藩主の結城秀康とともに越前に入り、約三万二千石を秀康から与えられた重臣です。北陸道沿いの柿原郷に館を構え、加越国境を防衛・監視する役割を務めていました。

三経は、1607年（慶長十二年）7月に死去し、柿原に埋葬されました。

この蔵骨器は、多賀谷左近の墓を1991年（平成三年）に整備した際、子孫により建てられた五輪塔の基壇下から発見されたものです。江戸時代初期慶長年間の信楽焼の壺で、最大径24.2cm、高さ33.5cmです。中には熟年期男性一人の焼骨片が納められていました。壺の時期や人骨の観察所見から、おそらく三経の骨と思われます。



墓所内に倒壊し、散乱していた石廟部材は、福井震災後の修理で五輪塔基壇に再利用されていました。本来は、年号や法名の刻まれた宝篋印塔が三経の墓塔であり、その覆屋として石廟が建てられていたと考えられることから、その後の整備で五輪塔基壇となっていた石材などで石廟を復元しました。

笏谷石製の石廟は、県内では最大規模を誇り、建造当時の荘厳さを今に伝えています。

だいにちによらいざそう
【大日如来坐像】（市指定文化財・彫刻・安楽寺像）

安楽寺は北潟地区にある真言宗の寺院で、開山に泰澄大師がかかわったとされる市内有数の古刹です。

蓮台に結跏趺坐し、手は法界定印を結んでいます。製作技法は寄木造で、内側をくりぬいてあります。目は玉眼で、仏身には金箔を施してあり、全体のつくりや製作技法などから室町時代の作と考えられます

2020年（令和二年）に傷んでいる部分の交換や補修、新しく彩色を施すなどの修復が行われ、現在の御姿になりました。



だいにんさぶろう さ え も ん け も ん じ ょ
【大連三郎左衛門家文書】（市指定文化財・古文書・個人蔵）

大連家は、平安時代に春日神社が河口荘に勧請された際、神輿に従って奈良から下向した社家の流れを汲み、明治時代まで本荘春日神社の神官を務めました。また、十郷用水の開削にも尽力し、江戸時代では十郷用水の管理を担う井奉行を代々務めました。



このような由緒を持つ大連家には、戦国時代から明治時代までの古文書に加え、十郷用水関連の絵図類が伝来しており、計46点の多様な資料が指定されています。

あわら市郷土歴史資料館

北陸新幹線芦原温泉駅開業記念企画展

「きて・みて！ あわらのお宝展—珠玉の指定文化財を大公開—」

会 期 令和6年3月9日（土）～5月9日（月・祝）

開館時間 9：30～18：00（最終入館は17：30）

休 館 日 毎週月曜日・第4木曜日（その日が祝日の場合はその翌日）

お問合せ 0776-73-5158（郷土歴史資料館直通）

e-mail maibun@city.awara.lg.jp